

平成27年度
「新 輝け! ちば元気プラン」
主な取組の実施状況について【抜粋】



平成28年9月17日
千葉県総合企画部政策企画課

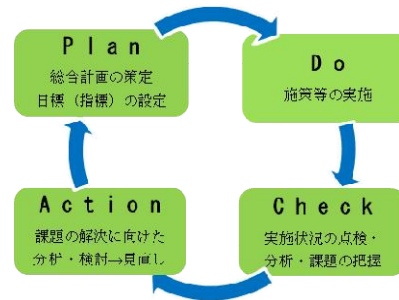
目 次

(頁)

平成 27 年度実施状況の概要

(1) 基本目標	安全で豊かなくらしの実現	
1	自助・共助・公助が連携した防災先進県づくり	1
2	安全で安心して暮らせる社会づくり	2
3	健康で長生きできる社会づくり	3
4	豊かな心と身体を育てる社会づくり	4
5	みんなで守り育てる環境づくり	5
(2) 基本目標	千葉の未来を担う子どもの育成	
1	子どもと子育て世代への強力サポート体制づくり	6
2	世界に通じ未来支える人づくり	7
(3) 基本目標	経済の活性化と交流基盤の整備	
1	千葉の輝く魅力づくり	8
2	挑戦し続ける産業づくり	9
3	豊かな生活を支える食と緑づくり	10
4	活力ある県土の基盤づくり	11

県では、重点的な施策・取組の推進にあたって、総合計画の進行管理を、計画(Plan) 実施(Do) 評価(Check) 改善(Action)という政策評価の手法を活用したマネジメントサイクルに基づいて、毎年度行っています。



本書は、平成 27 年度における実施状況の抜粋版です。

なお、総合計画の内容や実施状況の詳細につきましては、県ホームページをご覧ください。また、県庁本庁舎 2 階県政情報コーナーや各地域振興事務所、県図書館等において閲覧することができます。

県HP ・千葉県総合計画「新 輝け！ちば元気プラン」【平成 25～28 年度】
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/sougou/singenkiplan.html>
・「新 輝け！ちば元気プラン」の進行管理【平成 25～28 年度】
<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisaku/hyouka/shinkoukanri/index3.html>

(1) 基本目標 安全で豊かなくらしの実現

政策分野 1 自助・共助・公助が連携した防災先進県づくり

【地域防災力の向上】

平成27年度の実施状況

「千葉県防災基本条例」の目的である地域防災力の向上を図るため、地域防災に関する講演会の開催や、行政や事業者、県民などが連携して帰宅困難者対策訓練などを実施しました。また、地域と行政、ボランティア組織との連絡調整役を担う災害対策コーディネーターの養成講座を3回（新規登録者数111人）実施しました。



災害対策コーディネーター養成講座

課題・取組方針

災害発生時の被害を最小限にとどめるためには、共助の取組が重要であり、県民や地域の防災意識のさらなる高揚を図るため、基礎自治体である市町村等による地域の実情に応じた取組を支援していくことが必要です。

そのため、地域の実情を踏まえた自主防災組織の育成や消防団の活性化など、市町村が創意工夫を持って取り組む事業を支援する補助制度（千葉県地域防災力向上総合支援補助金）を活用し、地域防災力の向上を図ります。

【災害に強いまちづくりの推進】

平成27年度の実施状況

災害時の道路ネットワークを確保するため、緊急輸送道路などの橋梁の耐震補強（県道松戸野田線 主水大橋）や道路法面などの防災対策（国道など45箇所）を実施しました。また、津波対策として、河川や海岸の堤防の嵩上げを実施するとともに、土砂災害を防止するため、土砂災害防止施設の整備を行い、急傾斜地崩壊危険箇所の解消に努めました。



急傾斜地崩壊危険箇所

課題・取組方針

橋梁の耐震化や津波対策を進めるためには、関係機関との調整や地元への丁寧な説明が必要であるため、関係者で構成される連絡調整会議の開催を通じた情報共有を図るなど、円滑な事業の推進に努めます。

【犯罪の起こりにくい、安全で安心して暮らせる社会の構築】

平成 27 年度の実施状況

平成 25 年に開始したコンビニ防犯ボックス設置等モデル事業の効果を検証したところ、侵入窃盗の大幅な減少や地域住民の地域治安評価の向上など、十分な事業効果が認められたことから、平成 27 年 11 月に柏市、平成 28 年 1 月に船橋市において、新たに防犯ボックスを 2 箇所設置しました。



防犯ボックス（船橋日大前駅）

課題・取組方針

自主防犯団体の構成員の高齢化が進んでいることから、若い世代を含めた自主防犯団体の結成や活動の促進を図る必要があります。そのため、次世代を担う自主防犯団体の育成に取り組むとともに、地域単位での自主防犯活動の活性化を図ります。また、県が設置した防犯ボックスを継続して運営するとともに、市町村による防犯ボックスの設置促進を図ります。

【交通安全県ちばの確立】

平成 27 年度の実施状況

県、県警、市町村に加え、関係機関や企業、団体等が連携して、交通安全キャンペーンを展開することで、広く県民に働きかけを行うとともに、交通安全環境の整備や交通指導取締りの強化との相乗効果により、「交通事故死傷者数」の減少（対前年比 1,450 人）に大きく寄与しました。



自転車マナーアップ隊

また、自転車利用のルール徹底を図るため、自転車交通安全教室を開催（参加者のべ 10,402 人）するとともに、特に自転車事故の多い高校生に対しては、自転車マナーアップ隊の活動を推進し、街頭での自転車の安全利用に関する指導や啓発活動を実施しました。

課題・取組方針

交通事故による死傷者数は減少傾向が続いているものの、交通死亡事故では、高齢者の占める割合が高く、危険な走行をする自転車も散見されることから、高齢者に対する研修の実施や LED バンドの普及など高齢者の交通事故防止を図るとともに、自転車交通安全教室の実施等により自転車利用のルールの徹底や改正道路交通法の周知を図り、交通事故の防止に努めます。

【安心で質の高い医療サービスの提供】

平成27年度の実施状況

千葉県医師キャリアアップ・就職支援センターにおいて、臨床研修に関する情報提供や技術研修を行った結果、平成28年度の研修医の採用内定者は41人増加し、全国最多の増加数となりました。また、看護師等学校養成施設の定員拡充への支援や、看護学生への修学資金新規貸付枠の拡充（120名増）、退職した看護師の復職支援など、医師・看護職員の確保・定着に努めました。



千葉県医師キャリアアップ・就職支援センターの技術研修

課題・取組方針

県民に効率的で切れ目のない医療を提供するため、急性期病院や回復期病院、かかりつけ医を含めた医療連携の促進が求められています。そのため、退院支援に係る仕組みづくりを進めるとともに、かかりつけ医と地域の拠点病院等がICTを活用して必要な情報共有を行える環境を整えます。

【高齢者が生き生きと安心して暮らせる社会の推進】

平成27年度の実施状況

急速な高齢化の進展に伴い、今後も施設介護に対する多大なニーズが見込まれることから、特別養護老人ホーム1床あたりの補助単価を全国トップクラスの450万円と設定し、市町村と連携しながら、高齢期に向けた住まいの充実と多機能化の推進を図りました。



認知症街頭パレード

また、認知症の早期診断と適切な対応に向け、認知症サポート医の養成やかかりつけ医への研修を実施するとともに、認知症サポーターの養成（50,373人）や街頭パレードの実施（参加者525人）などを通じて、認知症に対する正しい知識の普及・啓発に努めました。

課題・取組方針

特別養護老人ホームの整備については、施設介護に対するニーズの一層の増大が見込まれる中、建築工事費の高騰に伴う設置者の負担増により、整備の遅れが懸念されていることから、整備の推進に向け、市町村と密接な連携を図るとともに、財源確保に向けた取組や検討を行います。

【ちば文化の創造と千葉県民のアイデンティティの醸成】

平成27年度の実施状況

千葉県民としての意識を醸成し、千葉県に対する愛着や誇りを一層感じられるよう県民参加型イベント「県民の日ちばワクワクフェスタ2015」を開催したほか、県内11地域において地域の特色を生かした県民の日地域行事を実施するとともに、県内各地で376件の賛同事業が実施されました。



県民の日ちばワクワクフェスタ
2015

課題・取組方針

少子高齢化や核家族化の進展により地域コミュニティが衰退し、県民の文化芸術に親しむ機会が減ってきています。そのため、「千葉・県民芸術祭」への県民の一層の参加を促すとともに、学校教育における文化芸術活動を充実させるなど、文化芸術を鑑賞・参加・創造する環境づくりに努めます。

【「するスポーツ」、「みるスポーツ」、「ささえるスポーツ」の推進】

平成27年度の実施状況

毎年10月を「スポーツ立県ちば推進月間」とし、総合型地域スポーツクラブと小学校が連携して、県内7箇所で親子体験イベントやスポーツ教室を開催（のべ約700名参加）するとともに、県民体育大会のサブイベントとして、12の競技会場で体験教室や実技講習会を開催するなど、生涯スポーツの推進を図りました。



親子体験イベント

また、「ちばアクアラインマラソン2016」の開催に向けて、様々な方に参加いただけるよう、アスリート枠や外国人ランナー枠などの特別枠を設けるとともに、障がい者スポーツへの関心を高めるため、車いすハーフマラソンを正式種目としました。

課題・取組方針

スポーツに関心はあっても「忙しくて時間がない」「疲れていて体力的余裕がない」などの理由により、20歳～50歳代のスポーツ実施率が低い状況です。そのため、特に子育て世代に運動の機会を与えるため、親子体験イベントやスポーツ教室の開催、「スポーツ立県ちば推進月間」の周知を通じて、身体を動かす習慣の重要性について啓発を図っていきます。

【資源循環型社会の構築】

平成27年度の実施状況

廃棄物の適正処理を推進するため、排出事業者への立入検査や廃棄物処理業者に対する講習会を2回開催（受講者数766人）するなど、産業廃棄物の適正処理に係る事業者への指導と意識啓発に努めました。

また、県民の生活環境を保全し平穏な生活を確保するため、平成27年4月に施行された「千葉県特定自動車部品のヤード内保管等の適正化に関する条例」（ヤード適正化条例）の周知や、ヤードの立入調査（607か所、のべ819回）を実施しました。



ヤード

課題・取組方針

自動車リサイクル法など各種法令に違反した行為が行われている「不法ヤード」への対策を強化し、ヤードの適正化を図る必要があることから、引き続き、ヤード適正化条例の周知に努めるとともに、立入調査を実施し、ヤードの実態把握や条例に基づく改善措置を行うよう事業者を指導するなど、引き続き、県警と連携してヤードの適正化に努めます。

【豊かな自然環境と良好な大気・水環境の保全】

平成27年度の実施状況

大気環境を常時監視し、大気汚染情報を迅速に周知するとともに、工場などへの立入検査により事業者に対して指導を行いました。また、自動車による大気汚染物質の排出を削減するため、エコカー・エコドライブの普及を促進するとともに、燃料電池自動車を公用車として導入するなど、次世代自動車の普及促進を図りました。



燃料電池自動車

課題・取組方針

光化学スモッグの原因物質であるオキシダントは、県内の全測定局で環境基準を満たしていない状況であるため、生成原因となる大気汚染物質の発生を抑制する必要があります。そのため、引き続き、事業者に対し立入検査や指導を行うとともに、自動車からの排出削減対策として、エコドライブや低公害車、次世代自動車の普及促進を図ります。

(2) 基本目標 千葉の未来を担う子どもの育成

政策分野 1 子どもと子育て世代への強力サポート体制づくり

【親への育児支援と子育てしやすい職場環境づくり】

平成27年度の実施状況

男女がともに子育てを担う意識を醸成するため、民間企業などと連携し、職場での男女共同参画の自主的な取組を推進しました。

また、市町村との連携により、地域に根差した広報啓発活動や県民に対するシンポジウムを開催するなど、男女共同参画意識の促進に向けた啓発に努めました。



男女共同参画シンポジウム

課題・取組方針

共働き世帯の増加や地域コミュニティにおける人間関係の希薄化に伴い、家庭での育児環境は大きく変化してきています。母親の育児の負担感や孤立感を軽減し、ゆとりある子育て環境を作るためには、子育てを行う家庭だけでなく社会全体での男女共同参画意識の向上が必要です。

そのため、地域における男女共同参画意識の普及・啓発等を図る地域推進員の活動や、男女共同参画センターでのイベントの開催など、あらゆる機会を通じて男女共同参画意識の醸成に努めます。

【地域による子育て支援の充実】

平成27年度の実施状況

保育所における待機児童の早期解消に向け、「安心こども基金」等の活用や県単独の上乗せ補助制度により、民間保育所の施設整備(102箇所)を支援した結果、定員数が4,272人増加しました。

また、保育士の確保に向けては、「ちば保育士・保育所支援センター」で潜在保育士の再就職支援などに取り組んだ結果、101件の再就職につながりました。



地域子育て支援センターでの子育て相談

課題・取組方針

就労機会の比較的高い都市部を中心に、就労を希望する保護者が増えていることから、依然として入所待機児童が生じています。そのため、保育所の整備の着実な促進を図るとともに、小規模保育事業や家庭的保育事業などの地域型保育事業を推進するなど、引き続き、入所待機児童の解消を図ります。

【千葉のポテンシャルを生かした教育立県の土台づくり】

平成27年度の実施状況

県総合教育センターにおいて、教員の経験年数やニーズに応じた専門的、実践的な研修を開催（175講座、のべ6,000人受講）し、教職員の資質能力の向上に努めました。

また、心の教育推進キャンペーンとして、道徳教育に関する事例集や啓発ポスターを作成するとともに、県が作成した映像教材や読み物教材を活用し、実践的な道徳教育を推進しました。



総合教育センターでの研修風景

課題・取組方針

いじめや不登校生徒への指導上の問題、外国人児童生徒への対応など、複雑化・多様化する今日的な教育課題に対処するため、教職員の研修内容の充実が求められています。

そのため、県総合教育センターにおいて、研修参加者や所属校の管理者等を対象としたアンケート調査を実施し、研修内容や研修運営の点検を行うとともに、調査結果を活用した実践的な研修講座の開催を通じて、教職員の更なる資質向上を図ります。

【教育の原点としての家庭の教育力の向上と人づくりのための連携】

平成27年度の実施状況

学校・家庭・地域の人々が教育課題について語り合う「学校を核とした県内1000か所ミニ集会」を県内各地で実施し、地域住民との連携を強化しました。

また、児童生徒が抱える様々な問題の解消に向けて、スクールカウンセラーを小学校35校、高等学校10校に新たに配置するとともに、高等学校をグループ化し未配置校への対応を工夫するなど、教育相談体制の充実を図りました。



学校を核とした県内1000か所ミニ集会

課題・取組方針

小学校や高等学校ではスクールカウンセラー未設置校が多く、近隣配置校においても配置時間などの問題から、未設置校からの教育相談に十分に答えきれていない状況です。そのため、引き続き、カウンセラーの設置を計画的に進めていくとともに、グループ化などによる対応の充実を図ります。

(3) 基本目標 経済の活性化と交流基盤の整備

政策分野1 千葉の輝く魅力づくり

【光り輝く千葉の魅力を全国・海外に発信】

平成27年度の実施状況

平成27年9月に、知事がマレーシア・タイ王国を訪問し、県産品や観光客誘致などのトップセールスを行いました。

また、テレビ番組やラジオ番組、新聞広告、交通広告など多様な媒体を活用するとともに、海外プレス向けに情報発信を実施するなど、千葉の魅力を国内外に発信しました。



トップセールス（マレーシア）

課題・取組方針

東京オリンピック・パラリンピック開催を控え、国内外を訪れる多くの人々に千葉の魅力を知ってもらうことが重要です。このため、国内外に向けて、認知度、信頼度、好感度を高め、千葉県を選んでもらえるよう、国内外へのプロモーションや各種メディアを通じたPR活動を戦略的に展開し、観光や優れた企業立地環境、県産農林水産物などの千葉の魅力を積極的に発信します。

【千葉の「宝」を生かした観光立県の推進】

平成27年度の実施状況

何度でも訪れたい魅力ある観光地づくりを推進するため、観光公衆トイレなどの観光関連施設や公衆無線LANの整備に対し助成するとともに、観光施設や宿泊施設などのスタッフを対象に、外国人観光客への先進的な「おもてなし」についての研修会を開催するなど、観光振興を担う人材育成を図りました。



観光公衆トイレ整備事例

課題・取組方針

東京湾アクアラインや圏央道の利便性向上などにより、国内外から本県を訪れる観光客は今後も増加が見込まれています。

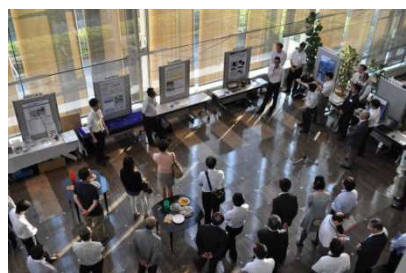
魅力ある観光地づくりを推進し、観光客の来訪を促進するため、引き続き、トイレや駐車場などの観光関連施設や無線LANの整備を促進するとともに、観光・宿泊施設の従業員などへの研修や外国語観光ボランティアの養成などを通じて、オール千葉でのおもてなし力の向上を図ります。

【県経済の活力を生み出す産業の育成と企業立地促進】

平成27年度の実施状況

中小企業健康・医療ものづくり産業への新規参入を促進するため、臨床現場とものづくり現場の双方を熟知した専門人材を配置し、法規制などに関する相談業務を行いました。

また、医師のニーズと企業の技術を結びつける場を提供するプロジェクト「C-square」などにより、5件の共同研究案件が生まれました。



C - square EXPO 2015

課題・取組方針

健康・医療ものづくり産業への新規参入には、医薬品医療機器法をはじめとした法規制や業界特有の商習慣、高額な設備投資の負担などの制約があり、専門人材による支援や情報提供を行う必要があります。引き続き、専門人材を活用した参入支援を行うとともに、医療機関・大学等や県内外の医療機器メーカーとの接点を強め、共同研究化や事業化を推進していきます。

【雇用対策の推進と産業人材の確保・育成】

平成27年度の実施状況

「ジョブカフェちば」における若者を対象とした就職支援や、「ジョブサポートセンター」における子育て中の女性や中高年離職者を対象とした就労支援、県立高等技術専門学校における職業訓練を通じて、平成27年度は6,109人（暫定値）の就職が決定しました。



ジョブカフェちば

課題・取組方針

雇用情勢は緩やかに改善されてきていますが、若年者雇用については、他の年代に比べて失業率や離職率、非正規雇用の割合が高い状況にあります。また、中小企業においても、大手企業による採用の拡大や学生の大手企業志向などを理由に、十分な人材確保が難しい状況にあります。

若年層の雇用改善や中小企業の人材確保を図るため、「ジョブカフェちば」による独自の求人開拓や企業と求職者のマッチングイベントの開催などを通じて、正規雇用の拡大や雇用のミスマッチの解消による定着率の向上に努めます。

【戦略的な産地強化と高収益型農林水産業への転換の促進】

平成27年度の実施状況

輸出事業に取り組む企業・団体で構成される「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を支援し、香港、マレーシア、シンガポールでの見本市に出展するとともに、タイ及びマレーシアで梨やサツマイモなど県産農水産物のPR活動を行い、県産農林水産物の輸出を促進しました。



千葉県フェア（マレーシアなど）

課題・取組方針

海外における日本産食品の人気を受けて、生産者団体の輸出への関心が高まっており、新たに輸出に取り組む団体への支援が必要となっています。

そのため、「千葉ブランド農水産物・食品輸出協議会」の活動を支援するとともに、市場動向や貿易実務ノウハウの情報提供など、新規に輸出に取り組む生産者団体に対し支援を実施します。また、トップセールスを行ったタイ、マレーシアでのPR活動を継続するとともに、シンガポールなどの新たな国・地域での活動を進め、県産農林水産物の輸出の拡大を図ります。

【緑豊かで活力ある農山漁村づくりの推進】

平成27年度の実施状況

企業や市民活動団体などの多様な主体による耕作放棄地の再生活動を支援した結果、約18ha（平成21年度からの累計で約114ha）の耕作放棄地が解消されました。

また、有害鳥獣による農作物被害を軽減させるため、捕獲用わな（12市町で367基）や防護柵（13市町で152km）を設置しました。



房総ジビエ

課題・取組方針

イノシシなどの有害鳥獣による農作物被害は依然として深刻な状況であることから、被害防止を図るため、引き続き、防護柵・捕獲用わなの設置や緩衝帯の整備を行います。また、処理加工施設での受入は、処理能力の3割程度に留まっていることから、捕獲された有害鳥獣を地域資源「房総ジビエ」として活用していきます。

【交流基盤の強化】

平成27年度の実施状況

全国や県内各地とのスムーズな人・物の流れの強化を目指し、圏央道、外環道などの高規格幹線道路等の整備を促進するとともに、その整備効果を県内各地に波及させるため、地域高規格道路や国道・県道の整備を進めました。

特に、圏央道については、平成27年6月に神崎インターチェンジから大栄ジャンクションまでが開通し、東関道と常磐道がつながることで、新たな広域ネットワークが誕生しました。



提供：東日本高速道路株式会社
圏央道：神崎 IC - 大栄 JC の開通

課題・取組方針

高規格幹線道路等の整備については、国等による事業の円滑な進捗を促すとともに、地域高規格道路や国道・県道の整備を推進し、道路整備効果を県内各地に波及させることが重要です。

そのため、地元市町村及び県内経済団体等の関係団体と連携を図り、高規格幹線道路等の整備促進を国に強く働きかけます。また、早期に供用が見込まれる箇所重点投資を図るなど、地域高規格道路や国道・県道の効率的な整備に努めます。

【人と環境にやさしい住まい・まちづくりの推進】

平成27年度の実施状況

鉄道駅エレベーターの設置（2駅3基）やノンステップバスの導入（8事業者46台）などについて、市町村や事業者に対し補助を行い、公共交通機関のバリアフリー化を促進しました。



鉄道駅エレベーター

課題・取組方針

鉄道駅バリアフリー設備は、高額かつ設置スペースの確保が難しいことから、整備が遅れるおそれがあります。そのため、国が定めた目標の達成に向け、引き続き鉄道駅バリアフリー設備整備事業補助金等を活用して、市町村や事業者の取組を支援し、さらなる公共交通機関のバリアフリー化を促進します。

千葉県 総合企画部 政策企画課 政策室
〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1番1号
電話：043-223-2440 FAX：043-225-4467
県HP：<http://www.pref.chiba.lg.jp/index.html>

